

焼酎リユースびん推進事業の状況について

平成22年3月16日
九州地方環境事務所

今年度の取組について

- 主として、五合びん（中容量びん）へのリユースシステムの普及拡大
（一升瓶についても共通的な課題については検討）
- 900ml茶びんは芋焼酎メーカーに多いことから鹿児島県を中心に焼酎リユースびんの普及拡大を推進
- 関係者間での情報共有のための「焼酎リユースびん推進会議」の開催
- 「リユース」の一般消費者への普及啓発
- リユースシステム導入に対する支援

リユースシステム導入に対する支援事業

- リユースを実施する上で課題となる事項を解決するため、地域の焼酎びんのリユース化のモデル的取組への支援事業を実施。
 - リユース推進のための基盤整備を図る
 - 具体的には、以下の2事業を中心に進める
 - ✓ リユースに関心のある酒造メーカーへの情報提供
 - ✓ 空きびん回収に協力してくれる自治体への支援

モデル事業(1) 酒造メーカーへの支援

大隅・鹿屋地区での取組支援

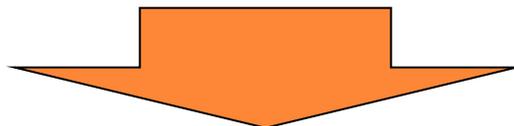
- 大隅・鹿屋地区の焼酎生産の概要
 - 大隅・鹿屋地区には15社の酒造メーカーが立地している（大隅：9社、鹿屋：6社）。
 - 洗びん機を保有しているメーカーも少なくない。
 - 居酒屋等の業務用において地元メーカーのシェアが高い。
 - 地域において積極的なびん回収が行われている。

モデル事業(1) 酒造メーカーへの支援

大隅・鹿屋地区での取組支援

○ 回収びんの流通状況

- 地元出荷分については、メーカーが自主的にびんを回収しており、回収びんのリユースも進めている。
- 回収方法は、酒販店経由、びん商、集団回収など



○メーカーによっては地元出荷分の2/3から全量を回収びんでまかなっている。

○回収したびんを処分しているメーカーもある。

→リユースを実施する基盤はあるのではないか

モデル事業(1) 酒造メーカーへの支援

大隅・鹿屋地区での取組支援

- A社の場合
 - (現状)
 - 地元出荷分は3割程度、ほぼ全量を市中回収したびんで出荷
 - Rマークびんの導入も検討
 - (懸念)
 - Rびんの導入に伴うコストが不明
 - びんの変更が市場に受け入れられるかどうか不安がある
 - Rマークびんの入手ルートがない
 - (支援内容)
 - ライン変更に必要なと想定されるコストに関する情報提供
 - Rマークびん供給ルート構築を具体的に検討

モデル事業(1) 酒造メーカーへの支援

大隅・鹿屋地区での取組支援

- B社の場合
- (現状)
 - 一回のびん詰め量は12千本。そのうち2/3は市中回収びん
 - 回収びんは地元びん商から洗びんで入手
- (懸念)
 - 市中回収びんに書かれた文字を落とすのに苦勞している
- (支援内容)
 - 具体的支援無し
 - 今後、好事例として紹介することを検討

モデル事業(1) 酒造メーカーへの支援

大隅・鹿屋地区での取組支援

- C社の場合
 - (現状)
 - びんは回収しているがカレット処理
 - (懸念)
 - リユースを進めるにもP箱の不足・確保が懸念される
 - リユースを行う環境が整っていないと認識
 - (支援内容)
 - A社、B社のように地元向け出荷についてはリユースすることを提案し、必要な支援を検討

奄美大島におけるびん回収モデル事業

- 奄美大島における焼酎生産の概要
 - 奄美地域は黒糖焼酎の生産地。大小合わせて27社の酒造メーカーが立地
 - 島内消費より島外消費の方が多い
 - 大部分の出荷は段ボールで行われている
 - 黒糖焼酎の出荷量は約1万キロリットル/年
 - 近年は紙パックでの出荷が増加

モデル事業(2) 自治体への支援

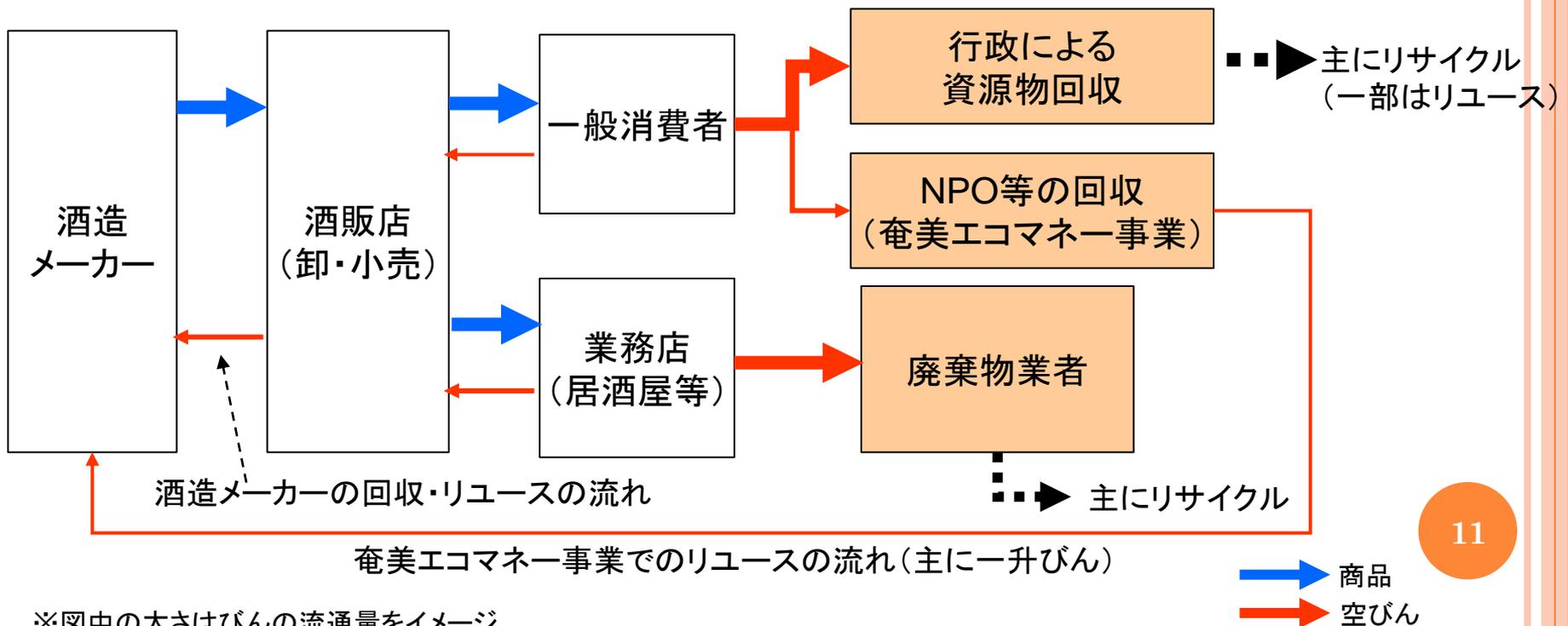
奄美大島におけるびん流通の概要

- 島内にびん回収・洗びんを業として実施する者（いわゆる“びん商”）は存在しない
- 現状、使用済みびんは、以下のルートで回収
 - 行政による資源物回収
 - 多くは容リ法ルートでリサイクル。使えるものはエコマネー事業へ
 - 民間一廃・産廃業者の回収
 - 業務店から回収され大部分はクリーンセンターに搬入
 - 一部メーカーの回収
 - 酒販店経由、自主回収などでリユース
 - NPO等による回収
 - 奄美エコマネー事業を通じてリユース

モデル事業(2) 自治体への支援

奄美大島におけるびん流通の概要

- リユースのルートは、酒造メーカーの回収・リユース、奄美エコマネー事業でのリユースが中心となっている
- いずれの回収も折りたたみコンテナや段ボールなど利用



※図中の太さはびんの流通量をイメージ

主なルートのみを記載。実際には集団回収、行政資源物回収からのリユースなどのルートも存在

モデル事業(2) 自治体への支援

奄美大島におけるびん回収モデル事業

リユースを実施するためには、

- 多くの酒造メーカーは洗びん機を保有しているが、びん回収するルート（特に運搬方法）に改善の余地がある
- 奄美市がNPO法人等と連携した、一升びんの回収・リユース事業「奄美エコマネー事業」を活用・発展させることで島内でのリユース促進が期待される

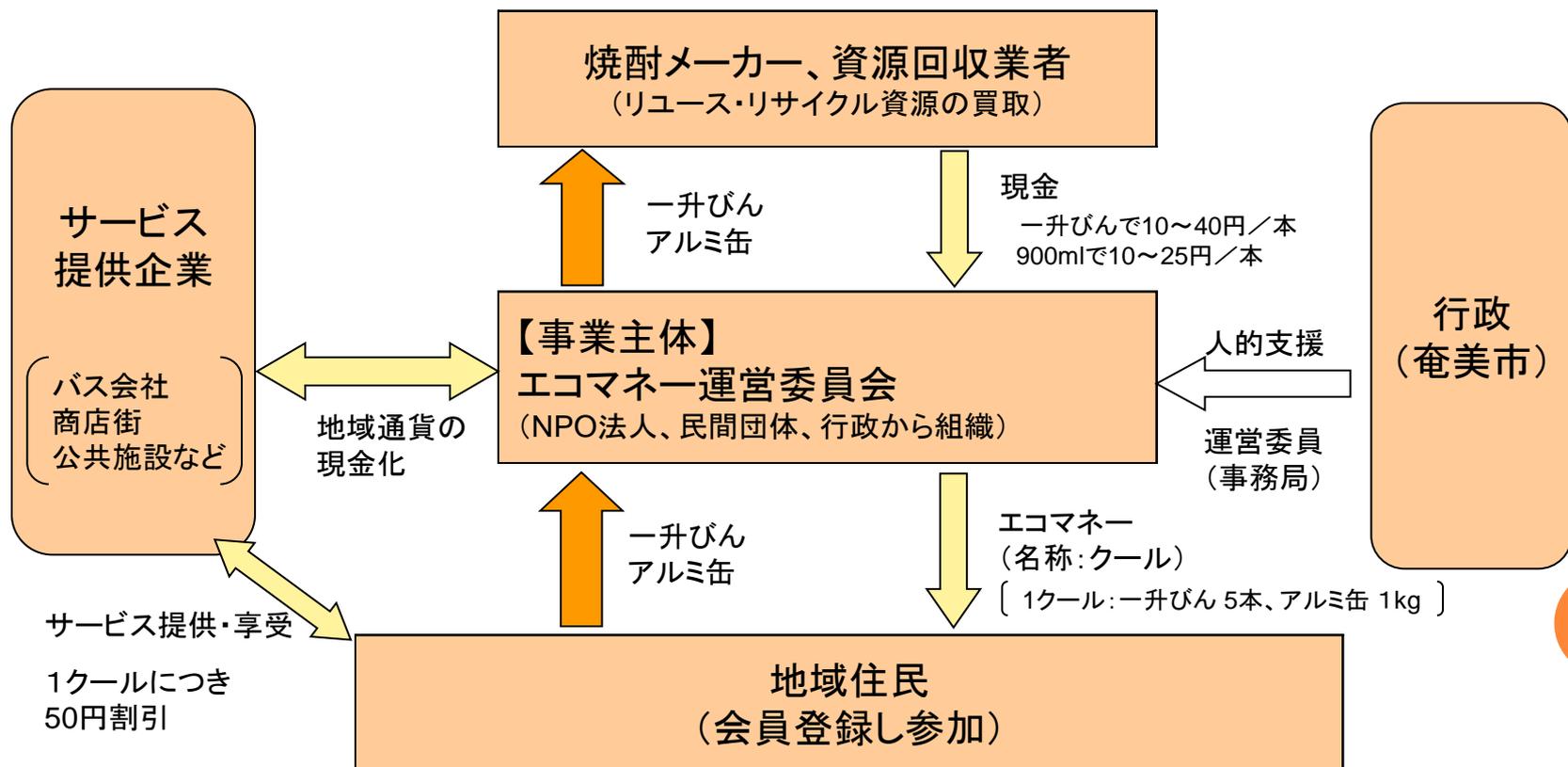
そこで、モデル事業として

- 「奄美エコマネー事業」と連携し、回収対象を中容量びんなどにも拡大、回収容器（P箱）を利用することで効率化・不良率の低減を図る

モデル事業(2) 自治体への支援

「奄美エコマネー事業」の概要

- 会員登録した住民がアルミ缶及び一升びんを指定場所に持参し、エコマネー（名称：クール）を受け取る
- 一升びんは地元の焼酎メーカーが買取、洗浄しリユース



モデル事業(2) 自治体への支援

奄美大島におけるびん回収モデル事業

- 回収容器（P箱）を支援し、回収の効率化・運搬時の不良率の低減を図る。
- 酒造メーカーからの出荷は従来通り（段ボール等）、回収のみP箱を使うことでびんリユースを促進



- ・ 左図は収集時に使用される折りたたまれたパレット。
- ・ 組み立てると右図のようになるが、横倒しでの運搬となる。



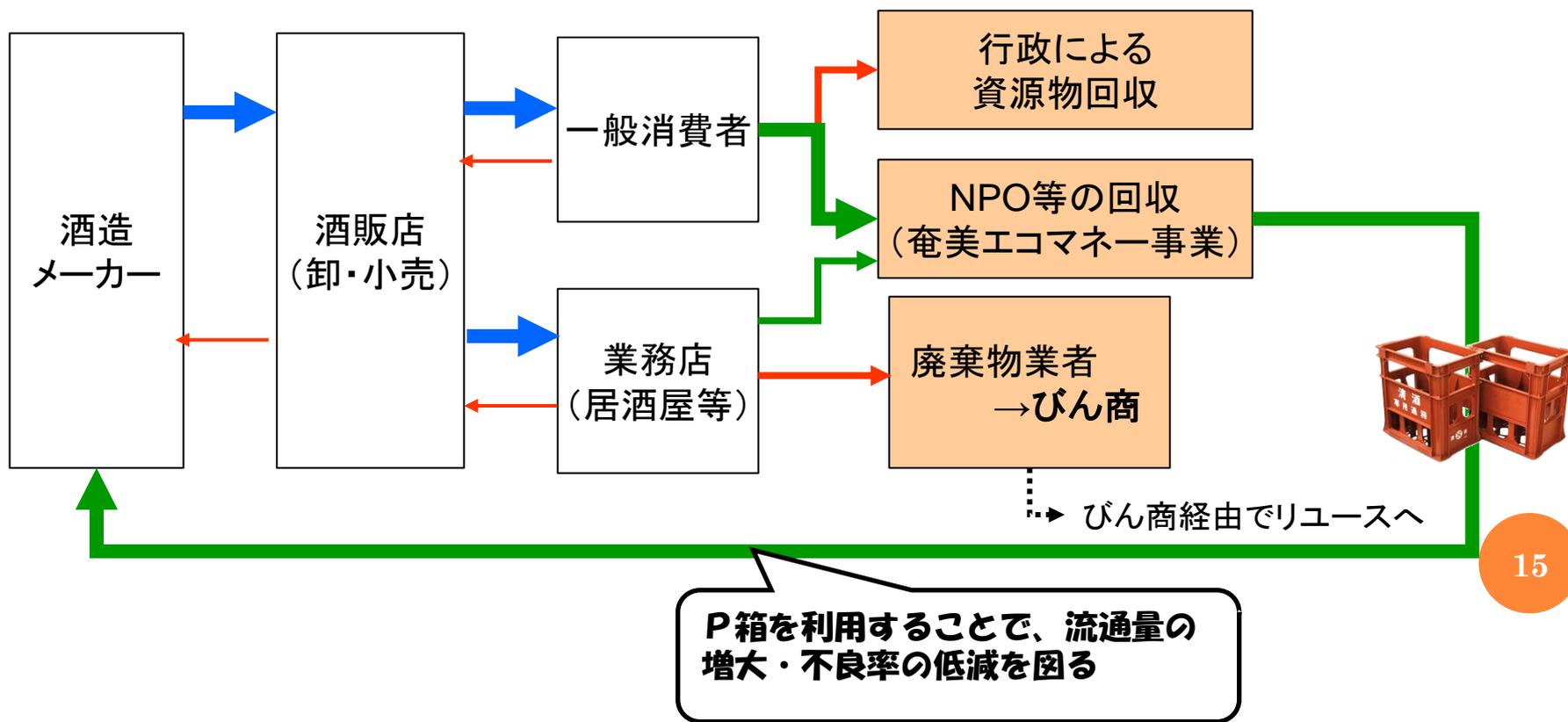
【支援内容】

- ・ 一升びん用(6本) : 500ケース
- ・ 中容量用(12本) : 500ケース
- ・ 300ml用(12本) : 250ケース

モデル事業(2) 自治体への支援

奄美大島におけるびん回収モデル事業

- 市のエコマネー事業での回収をP箱回収とすることで酒造メーカーに戻るびん流通量を増加させるとともに、不良率を低減させる
- 業務店で発生するものについても、市のエコマネー事業による回収ルートに乗せるよう奄美社交飲食組合に協力要請



モデル事業(2) 自治体への支援

奄美大島におけるびん回収モデル事業

びんリユースの仕組みを構築するために

- 奄美市、酒造組合奄美大島支部、奄美社交飲食組合、エコマネー事業運営NPOによる協議会を開催
 - 市のびん回収へのP箱の導入
 - 市のびん回収への協力
 - 市回収びんの酒造組合としての引取の検討
- について協議

将来的には

- 洗びん工場の誘致
- 奄美地域全域でのびんリユース化を目指す